

Weekly Bulletin 2018-2019



RI会長
バリー・ラシン



BE THE INSPIRATION



会長
杉田至弘

静岡東ロータリークラブ

会長 / 杉田至弘 幹事 / 川口尚宜

事務局 / 静岡市葵区追手町2-12 静岡安藤ハザマビル5F TEL054-254-5611

例会場 / ホテルアソシア静岡 例会日 / 毎週 木曜日 12:30~13:30

<http://www.shizuoka-east-rc.jp>

第 2891 回例会

平成 31 年 2 月 21 日 天候 晴

- 《司 会》 川口 尚宜 君
- 《合 唱》 「それでこそロータリー」
- 《BGM》 「Boys in Rolls」
- 《ゲスト》 なし
- 《ビジター》 なし

《本日のお祝い》

お誕生日

2月22日 佐橋 徹 君
2月24日 早川 正久君

結婚記念日

該当なし

《ソングリーダー》

川崎 依子 君

競泳の日本代表の池江璃花子選手が白血病であることを告白し、日本中が衝撃を受けましてその後堀ちえみさんが舌癌であることを告白されましたが、日本人の2人に1人また男性に関しては6割が癌に発症する可能性があるそうです。癌の発症を防ぐには、食べ物と生活習慣が重要で後はストレス溜めないことのようにです。



《会長挨拶要旨》 「インターミーティング」

杉田 至弘 会長



今日は先週の日曜日に開催された国際ロータリー第 2620 地区静岡第 3 グループ 2018-2019 年度インターシティーミーティングについてお話しします。通称 IM は、個々のクラブの枠を越えてロータリーアンが共通の課題について話し合う場と言われてきましたが、今までグループ分けが複雑で分かりにくい組織になっていました。今

回それが是正され、旧静岡市の7クラブ、旧清水市の5クラブ 合計 12 クラブがひとつになって静岡第 3 グループに構成され、第一回目の IM でした。ロータリーの役割について、ロータリーの未来について各クラブ共通の課題を話し合おうという場が漸くできたという事です。IM は従来通り各クラブが順番で運営します。

今回は新制 IM 第一回目という事で一番歴史が古い静岡 RC が担当、浅原諒蔵ガバナー補佐、寺戸常剛実行委員長のもと全会員がホスト役となりました。約 3 時間の詳細は省きますがやはり静岡市内 12 クラブがひとつになったという確認をした意義ある IM だったと思います。来年は清水 RC が担当で佐野忍ガバナー補佐のもとアソシアで開催されることが決まりました。そして再来年は当静岡東クラブが担当となり、就任が決まっている佐橋徹ガバナー補佐のもと会員全員がホストになります。どんな来賓、ゲスト、講演者を呼ぶか、演出をどうするかなども重要ですが、東がやった IM は「これからの RC の在り方に非常にプラスになった」というものを何か見つけたいですね。というのが私の思ったことです。

先日メイクアップにいらした日銀の竹内支店長の講演「変貌する静岡・現状と課題」は分かり易い素晴らしい講演でした。出席されなかった方に一部レジメを卓上におきました。

日本経済は米中の貿易摩擦、新興国経済の減速、消費税アップなどのリスク要因はあるものの緩やかな景気拡大が続く。静岡県経済も設備投資、輸出、公共投資はゆるやかに増加、個人消費も持ち直している、企業の生産性、消費者物価も前年を上回っているので緩やかに拡大をしているだろうと予測されています。

そして静岡県の課題は人口減少だ、そしてその課題は女性の活躍とコンパクトシティの推進をあげました。コンパクトシティの実現は別にしまして、女性の活躍はずっと述べられていますが、静岡県は特に若い女性の県外流出が顕著、そして男女の賃金格差が全国で 2 番目に大きいと指摘されました。

若い女性の流出が多いということは、魅力ある職場がないのか、魅力ある男がいないのか、賃金がそんな

に格差があるのか？考えることは色々ありますね。何はともあれ、東ロータリーは若い魅力ある女性一杯いますので、その方たちのお力をお借りする共に、もっと女性会員を増やしていく必要があるかもしれません。報告を終わります。

《会員卓話》

「島根の紹介」



宇田川 亨 君

ジェイアール東海静岡開発の宇田川です。僭越ではありますが、ご指名いただきましたので、本日は私が卓話をさせていただきます。私は、島根県松江市出身で、高校卒業までの18年間を島根で暮らしてきました。祖父の代までは鍛冶屋でした。宇田川という苗字は島根県でも多くはなく、約200名程度とのことです。日本全体では約24,000人で、そのうち、東京、神奈川、千葉埼玉で約21,000人いるようです。

大学生活は京都で4年間過ごした後、平成2年のバブル経済絶頂期にJR東海に入社しました。東京、名古屋、大阪で勤務し、今回が初めての静岡勤務であり静岡生活を満喫しております。家族は、家内と息子1人で名古屋に住んでいます。息子はもう大学生で、ほとんど家におりませんので、週末は家内と愛犬とで趣味のドライブなどで過ごしています。最近は、家内がクルーズ旅行にはまっています、年1回、客船「飛鳥II」でのクルーズ旅行につき合わされています。

本日は、私の故郷である島根県について話をさせていただきます。静岡のように魅力があふれる地域ではありませんが、皆さんに少しでも関心をもっていただければと思い、島根県の魅力について紹介させていただきたいと思います。

島根県の人口は、67万9千人で、静岡市の人口よりも少しすくないくらいで、鳥取県に次いで2番目に人口の少ない県です。人口は減少傾向にあり、前年から7.3%減少しています。

高齢化が進んでおり、平均年齢で見ると、秋田県高知県に次いで第3位ですが、人口10万人あたりにおける100歳以上の人数は、島根県が101人と6年連続で全国1位です。

島根は日本海の海の幸が豊富であり、まさにこの時期は冬の味覚が美味しい季節です。「かに」の漁獲量は約3,000tと全国4位です。特に山陰沖で獲られた「ズワイガニ」の雄は「松葉ガニ」と呼ばれ、身がぎっしり詰まり、旨味が凝縮していて美味しいと言われています。また、「ぶり」の漁獲量は約1万2,600tと全国1位です。冬の日本海で獲られた「寒ブリ」は身が引き締まり、脂がのっていて美味しいと言われています。

また特産物として、宍道湖の「しじみ」があり、漁獲量は約4,100tと3年連続日本一で、全国の約40%のシェアです。そして、宍道湖のしじみは、大粒でコクがあり食味がよいと言われています。昭和40年代に全国的にしじみの量が減少したため、昭和48年から

数量制限、時間制限、日数制限など漁獲制限を行い、資源管理されています。

島根で「そば」文化が根付いたのは1638年に徳川家康の孫にあたる松平直政が、松本藩主から松江藩主に国替えとなった際に、信州から「そば職人」を連れてきてからと言われています。

島根出身の主な著名人としては、元内閣総理大臣の竹下登と若槻礼次郎。作家の森鷗外。ファッションデザイナーの森英恵。歌手の竹内まりあ。テニスの錦織圭。プロ野球では元楽天イーグルス監督の梨田昌孝。俳優の田中美佐子。キャスターの宮根誠司。元プロレスラーのアニマル浜口などがいます。

静岡は島根と違って、観光資源、食べ物、気候にも非常に恵まれ、交通も至極便利です。このように素晴らしい静岡について上品にまとまるのではなく、もっと食欲にPRを行うことにより、さらに多くの人を呼び込めると思います。特に、4月から始まるJRグループで展開する大型観光企画「静岡ディステーションキャンペーン」は静岡のよさをPRする絶好の機会だと思っています。私も、微力ではありますが、あらゆる機会に、この静岡の素晴らしさをPRし、少しでも静岡の活性化に貢献していきたいと思っています。先ほどもお伝えしたとおり、ロコミの力は絶大です。

フジドリームエアラインが、昨年3月より静岡空港と出雲空港を結ぶ路線を運航しています。以前は静岡から島根まで、新幹線を使って約5時間30分以上かかっていたのが、約1時間20分と飛躍的に短縮されました。昨年4月から12月までの搭乗率は、77%と目標としていた65%を大幅に上回りました。さらに、今年3月からの「夏ダイヤ」では、静岡からの滞在時間が長くなり、利便性が向上します。

この路線が、静岡と島根を結ぶ懸け橋となり、この交流が更に活発になることを願っています。

皆様も気が向きましたらぜひ一度、「神々の国 島根」にお越しいただければと思います。

とりとめのない話で恐縮ですが、以上で私の卓話を終わります。ご清聴いただきありがとうございます。ありがとうございました。

《スマイル報告》

佐橋 徹 君 誕生日のお祝いをいただきましてありがとうございます。75歳になりましたので仕事を整理してゆっくりしたいと考えております。

望月 康弘 君 昨年度スタートしたフィリピンの小学校への浄水器設置プロジェクトの一部が完了したと連絡がありました。皆様の善意が届いたと思います。

《出席報告》

時間の都合により割愛次週へ

(会報作成 松本 安之)